まちのあかりのガイドライン

（税関線沿道南地区）

～ 夜間景観づくりにむけて ～

フラワーロード美緑花推進協議会

Vol.1

はじめに

各種公共交通機関が集まる神戸の玄関口である三宮駅から神戸港へつながる主要な道路であるフラワーロードは、「デザイン都市・神戸」の顔となる通りです。昼間は、緑・花・彫刻が溢れる中を多くの人が行き交いますが、夜間においては人通りが少なく、魅力を発信する通りとはなっていません。現在、夜間において緑・花・彫刻を活かす街路のライトアップ整備が実施されています。それに合わせて、沿道の建物や工作物等においても夜間の照明演出を推進し、通りが一体となった質の高い魅力的な夜間景観づくりに向けた地域主体の取り組みが求められています。
そこで、地域団体や民間事業者等が具体的に取り組めるよう、まちのあかりのガイドラインを策定いたします。
なお、ガイドラインの内容については、照明の技術的進歩等に伴い、随時見直しを実施していくこととします。

目次

１．光の取り組みについて
　１）神戸市夜間景観形成実施計画の概要 ―――― P1
　２）光の７つの原則 ―――― P2

２．税関線沿道南地区でのガイドライン ―――― P3
　１）ガイドラインの位置づけ ―――― P3
　２）基本目標 ―――― P3
　３）適用区域 ―――― P4
　４）①　光の質の方針 ―――― P5
　　②　エリア毎の演出の方針 ―――― P5
　　③　光の演出ができる部分毎の演出の方針 ―――― P6
　５）夜間景観を創りだす、光の演出の技術的方法 ―――― P7

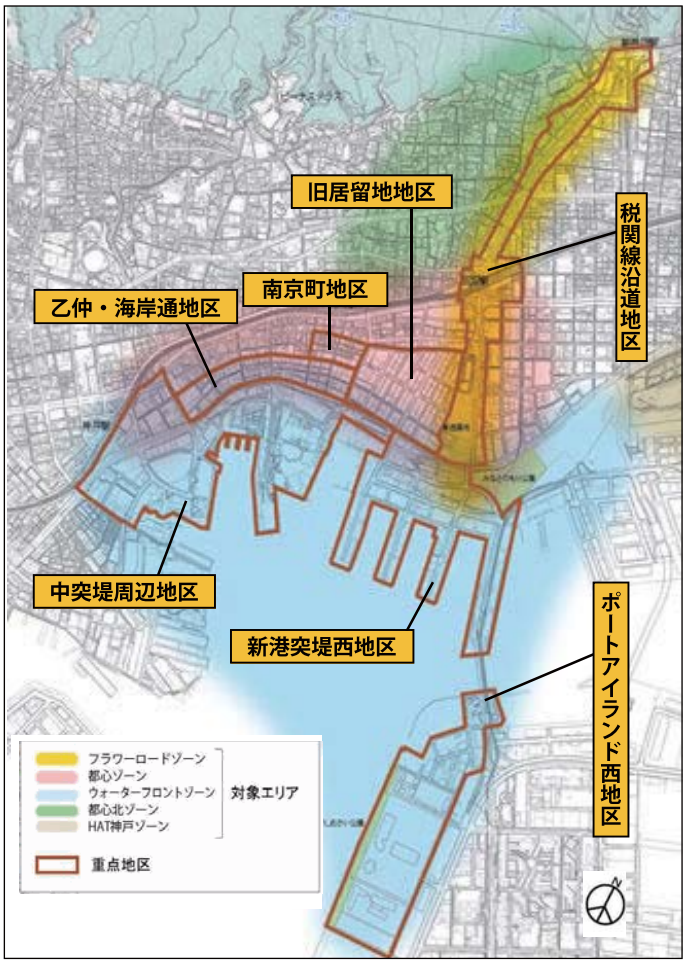
1．光の取り組みについて

1）神戸市夜間景観形成実施計画の概要

基本的な考え方

神戸市は、神戸らしい夜間景観にさらにみがきをかけ、「デザイン都市・神戸」の都市ブランド力を高めるため、優先地区を選定し、重点的に取り組むハード・ソフト・しくみづくりでの具体的施策をまとめた実施計画をH24年3月に策定しました。
「夜間景観形成基本計画」(H16年3月策定)の地区別実施計画として、都心・ウォーターフロントエリアが対象です。
市民・事業者・大学等・行政が連携した取組みを進めていき、「滞在型観光の促進」や「産業・文化の振興」にも寄与していくこととしています。

対象エリア：都心・ウォーターフロントエリア
重点地区　：７地区



空間づくりのテーマ

① 光の質の向上
地域特性に応じた「光のコンセプト」を設定し、既存の資源を活かす照明整備や、ライトアップ施設のリニューアルなど、一つ一つの光の質を高める光の演出を行います。

② 引き算のデザイン
まぶしすぎる照明などへの輝度の抑制や回転灯の禁止など、不要な光を無くし、主役を引き立たせるような光の整理を行います。

③ 環境への配慮
街路灯のLED化などにより消費電力の削減を進め、地球にやさしい光環境を創造します。

具体的施策（税関線沿道地区）

ハード施策

フラワーロードの照明整備　「光のミュージアム」等。

電球色を基調とした樹木・花壇・彫刻を活かした光の演出

鉄道高架下などへの光の演出

東遊園地・花時計の照明整備

ソフト施策

夜間の都心を楽しめるしかけづくり等。

まち歩きのイメージ（ニューヨーク）

しくみづくり

『光のコンセプト』に沿った地区毎の特色ある夜間景観の形成に向け、景観誘導の手法や「引き算のデザイン」などテーマを反映した具体的な内容、その運用方法などについて、検討。

事業の具体化に向けて

実施計画推進委員会で事業の具体化に向けた検討、調整、推進。

地域団体・事業者と連携した取り組み。

2） 光の７つの原則

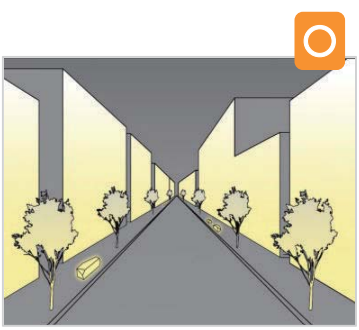
これからの都市照明には光の品質に関わる７つの原則があります。バランスの良い夜間景観を具体化するためには、以下の原則に沿って計画することが大切です。

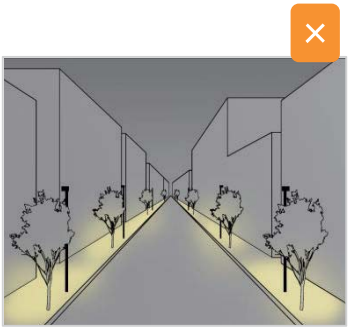
① 鉛直面の輝度を重視する	：	少ないエネルギーで街に明るさ感を与える
② グレアフリー	：	目に優しい景色をつくる
③ 最適な色温度	：	安らぎと緊張感を演出する
④ 高い演色性	：	人や緑を美しくみせる
⑤ 快適な陰影	：	リズミカルな明るさを分布させる
⑥ オペレーション	：	刻々と変化する夜景を演出する
⑦ 適正照度	：	効率的に明るさを確保する

これら原則のうち、地域で良い夜間景観を実現するためには、①～③の３つが特に重要です。

① 鉛直面の輝度を重視する

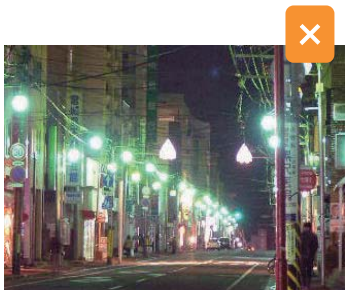
同じ光の量でも、床面に当てるより壁面に当てるほうが、明るく感じます。つまり、壁面の明るさを重視して配灯したほうが、電力を少なくでき、明るさを感じることになります。





② グレアフリー

グレアとは、目に眩しさを感じる不快な状態をいいます。またグレアがあると、それより強い光しか明るく感じなくなり、その他のものは暗く見えるようになります。
商店街にドラッグストアやコンビニができ始めた時に各地で起きた現象です。各店舗がバランスを取って照明を計画すれば、快適な光のまちとなり、かつ省エネにもつながります。



③ 最適な色温度

色温度とは光の色味の度合いのことをいいます。色温度が、高いと白く冷たい光の色になり、低いと黄色く温かい光の色になります。
色温度をコントロールすることにより都市の夜間景観は大きく変わります。「買い物」、「デート」や「夜の飲食」など活動に応じて望ましい色温度を設定するのがよいでしょう。

2．税関線沿道南地区でのガイドライン

1）ガイドラインの位置づけ

「まちのあかりのガイドライン」は、夜間景観形成実施計画に基づく質の高い魅力的な夜間景観を実現するため、住民、事業者等自らが、地区の目指す目標を定め、まもるべき光のルールや具体的な光の工夫（照明デザインによる光の演出方法）をとりまとめたものです。

今後、照明計画を考える際に、このガイドラインを活用することで、地域にふさわしく一体となったより魅力的な夜間景観づくりを推進していきましょう。

2）基本目標

実施計画　税関線沿道地区　光のコンセプト

都心を貫く『シンボリックな光』の演出　に沿って、以下の３つの基本目標を定めます。

① みなとまち神戸の玄関口を飾る、上品で賑やかな光を演出する
② みなとまち神戸へ導く、いざないの光を演出する
③ みなとまち神戸を楽しむ、もてなしの光を演出する

① みなとまち神戸の玄関口を飾る、上品で賑やかな光を演出する

大きい・強い光を避けた細やかな照明演出や、ビルの光を統一した美しさの照明演出など、駅に降り立った人を迎え入れる上品で賑やかな光を演出します。

ランドマークとなっている
百貨店ファサード（元町・神戸）

複数のビル演出が街のイメージをつくる
（銀座・東京）

② みなとまち神戸へ導く、いざないの光を演出する

主要な道路や鉄道の交点では、遠くからでも人を惹きつける拠点的な光の演出など、駅前から花時計、東遊園地、神戸港へとつながる光を演出します。

交差点の建物が街のアイコン
になっている（銀座・東京）

オブジェや樹木を利用して光をつなぐ
（オーチャードロード・シンガポール）

③ みなとまち神戸を楽しむ、もてなしの光を演出する

低層部は温かみのある色味で心地よい光を演出し、フラワーロード沿いにはライトアップした花と緑の設置や、季節感を演出する光のイベントの実施などで、街路と一体となったもてなしを演出します。

低層部のあかりで観光客をもてなす
（フランクフルト　レーマー広場）

街路の花を利用した季節の
あかりイベント
（丸の内フラワーファンタジア2008）

3）適用区域

三宮駅から国道２号までのフラワーロードに面する部分に適用します。

全域イメージ

4）① 光の質の方針

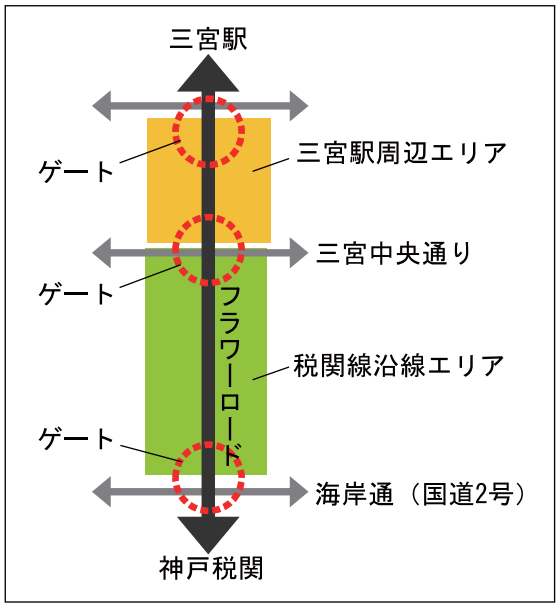
① 快適で効率的な明るさを創り出します ：鉛直面輝度(※1)を高める照明とします。

② 不快なまぶしさをなくします ：目に入る不快なまぶしさ（グレア）をなくします。

③ 温かみのある雰囲気を創り出します ：低層部は、色温度(※2)3000 K 以下の温かみのある色味とします。
基準階は、外部から見える室内の照明は、5000 K 以下とし、光色／輝度／光源を可能な限り揃えるよう努めます。

④ 物を美しく見せます ：平均演色評価数(※3) Ra を85以上とします。

4）② エリア毎の演出の方針



エリア構成

① 三宮駅周辺およびゲート周辺では、建物全体での光の演出に努めます。

② その他のエリアにおいては、ビルディングトップ及び低層部での光の演出に努めます。

※ ゲート：エリアをつなぐ主要な道路の交差点部分で、地区の顔となる場所をいいます。

用語説明

※１ 輝度 （単位 cd／㎡（カンデラ）） ：光源自体や照らされた面の輝きのことです。

※２ 色温度 （単位 K（ケルビン）） ：光色の違いを数値で表したものです。数値は赤いほど低く白いほど高くなります。
（例）温かい色（電球色） 3000 K
一般的な白色（昼白色） 5000 K
涼しい色（昼光色） 6700 K

※３ 平均演色評価数（Ra） ：光による物の色の再現性を「平均演色性」といい、それを数値化したものです。
基準光で見たときを Ra100 とし、色ズレが大きいほど数値は小さくなります。

4）③　光の演出ができる部分毎の方針

ビルディングトップ

・街に調和しつつ、印象的なスカイラインを形成し、美しい夜間景観をつくるように努めます。

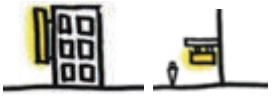
・色が変化する場合は、速度や点滅はゆるやかなものとし、色味は原色をできる限り避け、大人の町・神戸にふさわしい上品な印象となるような光とします。

ファサード(外観正面)

・遠方から眺める光の景色を創り出すライトアップなど、間接照明をこころがけます。

・建物の個性を活かした「建物の顔」をつくり、個々の魅力の連続性によって「撮影したくなる」ダイナミックで美しい都市夜間景観をつくります。

広告照明
サイン看板



・内照式の広告物を避け、切り文字（箱文字）型のバックライト文字や文字のみを照射するなど「上質な」印象に努めます。
また、外照式（スポットライト等使用）の看板広告物とするよう努めます。

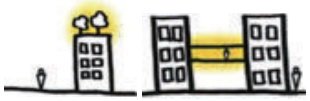
・高輝度や点滅式照明を備えた「自動販売機」は設置しません。

・高輝度、極度に早い点滅式または回転式の照明サインは設置しません。

・高輝度のLEDビジョンや、大音量及び動きの早い映像は基本的に不可とします。

※デジタルサイネージ（広告）及び映像装置を持つサイン等を設置する場合は、協議会に申請し、協議をすること。

屋上庭園
道路上の渡り廊下



・遠方から視認でき、人を惹きつける照明を演出とします。

・夜空を背景とした小さなランドマークとして、地上からのビューを意識した演出をこころがけます。

店舗ファサード
店舗内照明

・１～２階に設置するシャッターは透過性のあるもの（リングシャッター等）とします。

・閉店後も 21時まで は建物内部や外部の照明を点灯するように努めます。

・街路に光がこぼれる演出をこころがけます。
美的でありなおかつ安心感のある街路を目指します。

※映像装置を持つ場合は、協議会に申請し、協議をすること。

オープンテラス

・賑わいを呼び、滞留のきっかけとなる光の演出をこころがけます。

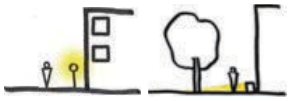
・色温度は3000k以下が望ましいでしょう。

植栽・樹木

・街路樹の照明計画に合わせ、鉛直面の輝度を高める照明とします(ライトアップ等)。

・街に潤いを与え季節感を高める緑や花を、ライトアップや庭園灯（低ポール灯）によって夕刻にも楽しめる工夫をすることで、夕刻から夜間にかけての散策を誘導する工夫をこころがけます。

ポール灯・壁付照明
通りのフットライト



・通りを過度に照らさず、行き交う人々をもてなす照明を演出します。

・建物価値を高める効果もあります。

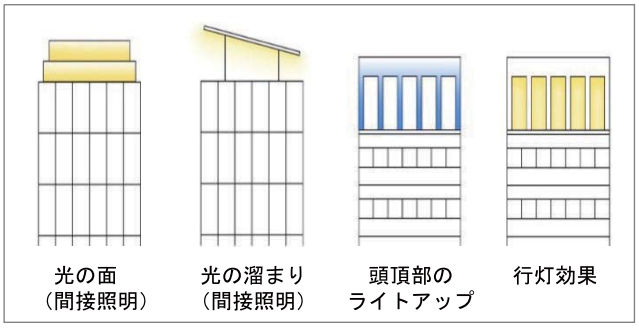
地面や軒天への間接照明…モダンで現代的な印象

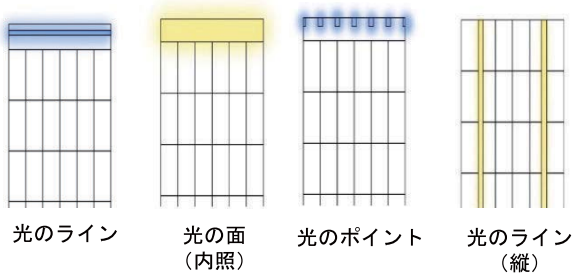
壁付照明…開口部を中心に対照に配置すれば、レトロ＆クラシカルな印象になります。
器具のデザインは、建物や街に調和したものを選びましょう。

5）夜間景観を創り出す、光の演出の技術的方法

ビルディングトップの演出

大景観に欠かせないビルディングトップの演出もさまざまな手法があります。

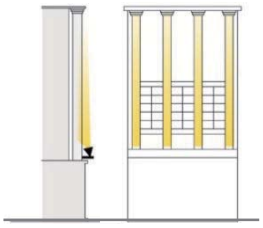




＊屋外用のLEDライン照明器具やLEDスポットライトを利用し、効果的な照射を行う。
落ち着いた印象となるので「間接照明手法」や「行灯効果＝内部からの光」を推奨します。

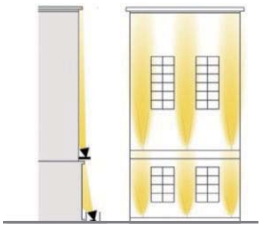
ファサードの演出

街の印象に大きく影響するファサード（外観正面）の演出にもさまざまな手法があります。



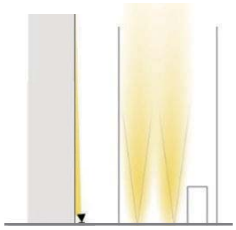
建築的特徴を活かした
ライトアップ（間接照明）

近代建築の柱意匠や壁面装飾などを効果的に演出し、神戸らしい夜間景観をつくります。
従来からライトアップしていたものも、小型のLED スポットライトの利用で、大きな省エネができます。



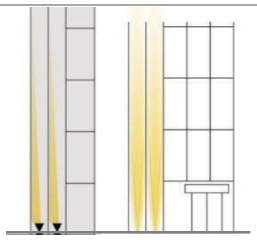
壁面の分割を活かした
ライトアップ（間接照明）

窓のある建物の残り壁を細かく照射する照明手法です。連続して並ぶと、欧州の旧市街のような、繊細で華やかな夜間景観がつくれます。小型の電球色LEDスポットライトを使用します。



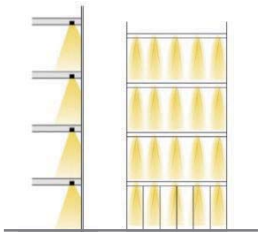
大壁面を魅せる
ライトアップ（間接照明）

現代建築のシンプルな大壁面などを下からライトアップする手法です。
日中とは異なるダイナミックな景観が現れます。石やタイルの外壁に向いており、ガラス面には不可です。
人が通行する場所に設置する場合は保護箱などに照明器具を収めて設置します。



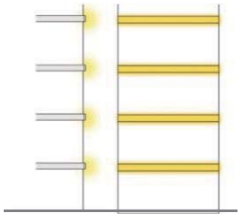
部分を利用した
ライトアップ（間接照明）

交差点の建物など、演出可能な壁面が少ない建物でも部分的なライトアップで景観演出効果があります。
頭頂部や狭いが長い壁面などがないか点検し、それらの特徴を活かして演出するのがポイントです。



室内の漏れ光を活かす演出

室内の照明デザインをファサードの印象として利用します。
外からのビューを意識して、各階共通の要素や配置を検討します。
また、色温度の統一も重要な要素です。
１、２階レベルでは、通行者に対するグレアに配慮しましょう。（P.10 参照）

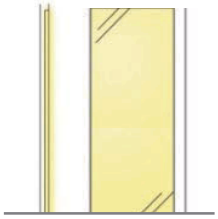


カーテンウォールでの
光のライン・面の演出

建物外部デザインそのものの要素として「光」を取り入れる例です。
横ライン・縦ライン・ゲート型など様々な意匠が考えられますが、激しい発光やまぶしいドット状の光を避け、輝度をおさえた上品な光を目指しましょう。

床スラブの面を
利用した間接照明

カーテンウォールの内部に見えてくる様々な「面」を利用し、外部に対する光の効果を活かす手法です。
落ち着いた印象と商業施設らしい華やかさが両立します。
各階の色温度を統一し連続性を持たすのがポイントです。

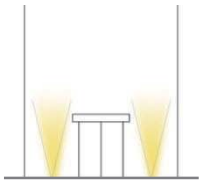


発光するファサード

近年世界中の建築で試みられているビル外壁演出です。
二重になった外壁の意匠を活かした「光のファサード」になります。

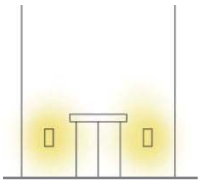
店舗ファサードの演出

集客効果に大きく関わる「店舗ファサード」の演出にもさまざまな手法があります。



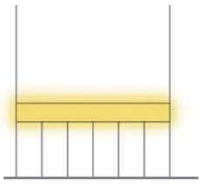
外壁ライトアップ
（間接照明）

エントランスを強調し、誘導効果があります。



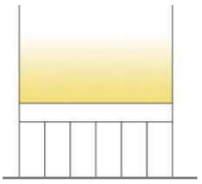
壁付照明

照明器具のデザインによって、店舗の業態やテイストを強調する効果があります。



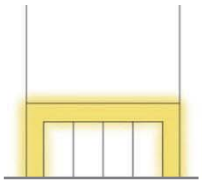
発光する面

強い視線誘導効果がありますが、輝度に注意し意匠壁としての品格が必要です。看板は要注意です。



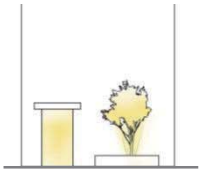
外壁ライトアップ
（間接照明）

建物全体を印象付け遠くからの誘導効果が高くなります。



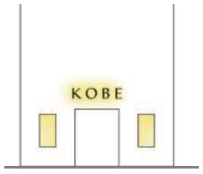
光のゲート演出

強い視線誘導効果がありますが、輝度に注意し、意匠壁としての品格が必要です。



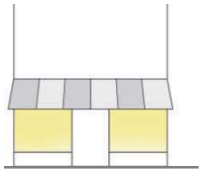
植栽の演出

好感度の高い植栽を利用したファサード演出です。鉢植えやプランターなどでも効果があります。



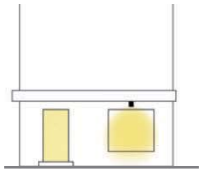
サインの演出

サインのデザインや照明効果によって、お店のテイストや雰囲気が伝わります。



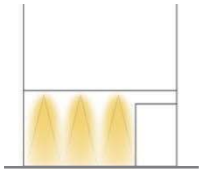
内側からの漏れ光

窓から漏れる光を有効に使い店舗イメージを伝える手法です。街路の賑わいに大きく貢献します。



外部装飾の照射

店舗のテイストを、外部設置のスポットライトで強調します。



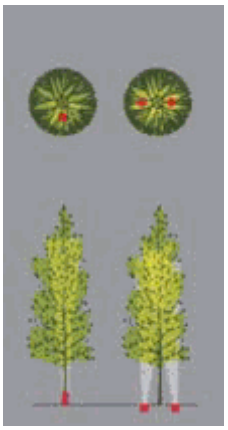
外壁の照射
（間接照明）

石やタイルの外壁では、光が当たっているだけでデザイン性が高まります。

植栽・樹木の照明演出

樹木がある場合は、その照明効果は重要です。
特にライトアップは、市販のコンセント差込型の機材でできる場合もあります。

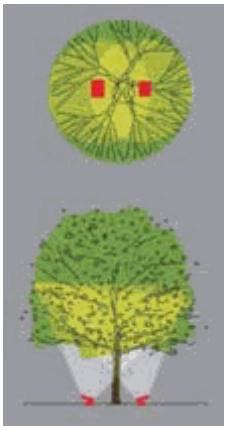
細い樹形や縦長の樹木
小ぶりな樹木



（シマトネリコ・
ハナミズキ等）

樹木の下部で、できるだけ幹に近づけて設置します。
幹から先端に向けて、縦に全体を真上方向に照射するのがポイントです。
光源の配光は狭角とします。
幹の明るさ感が重要な景観要素となります。

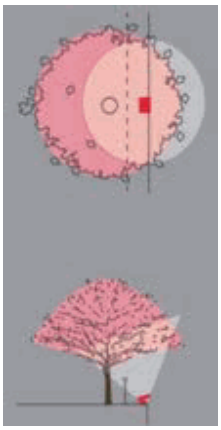
広がった樹形や
大きめの樹木が
全方位で見える場合



（ケヤキ・クスノキ・サクラ等）

樹木の下部で、できるだけ幹に近づけて設置します。
1灯では半分しか照射できないので視点を確認し、1樹木に対し2～3台設置します。
幹から先端に向けて、内側から外に向かって全体を照射するのがポイントです。
光源の配光は広角もしくは楕円配光とします。付近の建物内に光が差し込まないよう注意が必要です。幹の明るさ感が重要な景観要素となります。

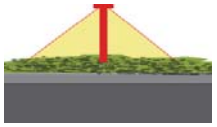
大きめの樹木が
壁などに寄って
いる場合



視点方向に設置し、光源が見えないように注意しましょう。

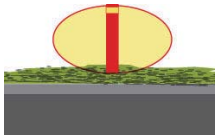
低木植栽・花・グランドカバー類

間接照明型の低ポール灯で植栽のみライトアップ



照明器具が黒子となり、植物のみが演出できます。

拡散型の低ポール灯で付近全体をライトアップ



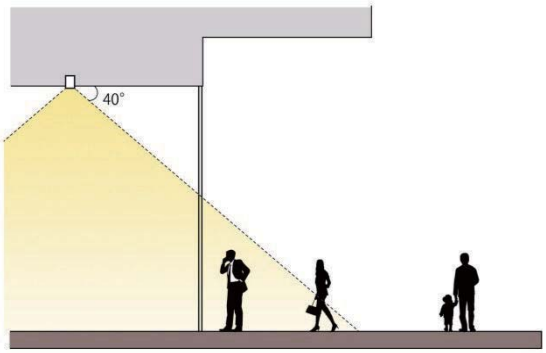
歩行のための明るさを同時に確保し、光の点が景観にリズムをつくります。

壁や柵際の植栽をスポットライトでライトアップ

植栽が明るくなることで、街路の明るさ感が増します。
植栽の影が壁面などに映り込み、印象的な景観となります。

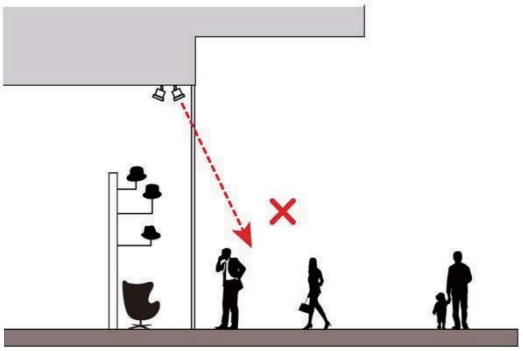
店舗内の照明演出

外部に面した店舗内からのあかりの効果も重要です。
歩道を歩く人に直接光源が目に入らないような配慮等が必要です。



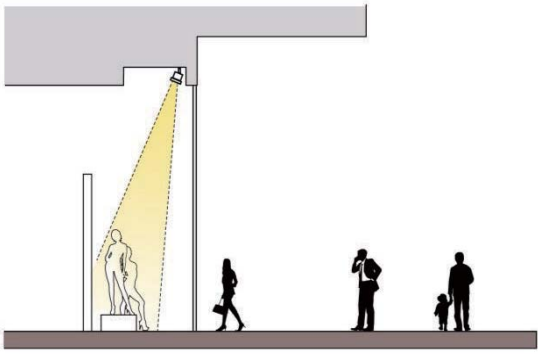
店舗のベース照明の漏れ

ウインドウ用の特別なあかりが無くても、店舗内のあかりの漏れ光が充分な景観効果を発揮します。グレアカット効果のある器具の使用をお勧めします。



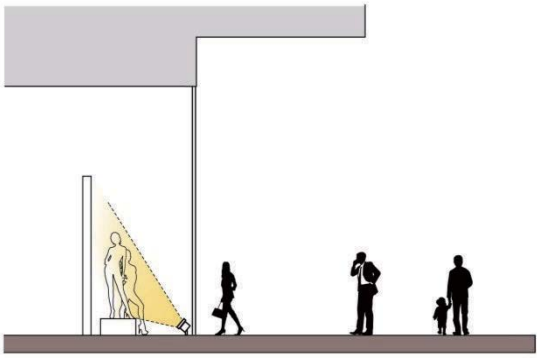
ショーウインドウの照射

ショーウインドウ用の照明設備は、店舗閉店後にも点灯することで大きく街の夜間景観に貢献します。スポットライトなどが歩行者の方向に向かないように注意します。



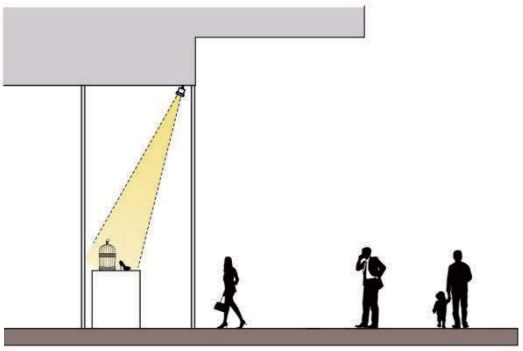
効果的なウインドウの演出①

展示物を斜め上方から照射するのが最も基本的な演出です。
スポットライトの存在が直接見えにくくなるように設置することをお勧めします。



効果的なウインドウの演出②

展示のイメージによっては、ウインドウ側下方や両側面から狙うことも一般的です。この場合も、照明器具が見えにくくなるよう注意します。また、店舗内へのグレアが無いよう、内壁や間仕切りが必要です。



効果的なウインドウの演出③

平台など什器を使ったディスプレイでは、上方からの照射を基本とします。平台そのものにあかりを仕込んで演出する方法もあります。

問い合わせ先　　神戸市都市局まち再生推進課　（TEL：078-595-6725）

平成25年発行